

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策 車椅子使用の入居者様が増え、特に2階からの避難が難しくなっている。また、火災、地震以外の水害や不審者等について対策を考えていなかった。備蓄品に関しても、実際すぐに使用できるか不安がある。	避難訓練を通して、地域の方からの協力を得ながら、車椅子の方も安全に避難できるようにしていく。 水害や不審者等の対策についてもマニュアルを作成し、意識を高め対応できるようにしていく。	車椅子の方の避難方法を一人ひとり明確にし、実際行ってみる。また、地震、水害、不審者等の対策で必要な物を準備していく。現在ある備蓄品については、定期的に確認し実際使用していく。	12ヶ月
3	8	職員を育てる取り組み 個々の研修への参加は昨年より増えている。しかし、入居者様の介護度があがっており、身体介護が増え、職員2人での対応が必要な方も多くなっているため、職員の介護技術も向上と勤務者のチームワークが求められてくる。	外部研修への参加、事業所内の勉強会を通して、必要な知識を身につけていくと共に、ユニット内のチームケアのあり方を再確認していく。ユニット内の雰囲気の良い悪いが入居者様へのケアへ直接影響することを再度認識し、リーダーや中堅職員が中心になり入居者様にとって居心地のよい空間をつくっていけるようにしたい。また、介護技術に関しても、個々の技術を高めたいけるようにしていく。	認知症ケア以外の介護技術の研修へも積極的に参加するように呼び掛けていく。また、事業者内でも、必要な内容について計画的に勉強会を設けていく。入居者様にとって居心地の良いユニットになる為には、職員はどんなことが求められるかを、各ユニットで話し合っていく。職員の力量も様々であるため、出来ない所に目が行きがちであるが、一人ひとりの良い所を探し、声に出して伝えていくことの重要性を伝えていく。	12ヶ月
3	2	事業所と地域とのつきあい 子供達との交流があまりできていない。中学生の職場体験はあるが、入居者様が一番喜ぶ幼稚園や、小学生、高校生との交流は行われていない。	幼稚園児や小学生との交流が持て、入居者様のとろけるような顔が見たい。定期的に行ったり来たりできるような関係を作りたい。	小学校で取り組んでいる、ペットボトルの蓋集めに協力し、入居者様と一緒に小学校に出向いていく。また、幼稚園との交流を持てるよう、働きかけていく。	12ヶ月
5	10				

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。